

2023年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所
第69代理事長 段 厚美

革新

～持続可能な幸せを生み出す力であれ～

～はじめに～

中津川青年会議所は、戦後10年まだまだ混乱を極めていた日本経済を若い力で立て直そうと、若き青年たち21名で発足しました。以来「明るい豊かな社会」の実現のため、その時代に合わせた組織へと変化しながら、未来のまちや人を想像し、どんな困難にも努力を惜しまず、自分や仲間を信じ突き進んできたからこそ今があります。たった21名で、この地域に影響を与えられたのであれば、私たちにもできないことはないとは私は信じています。

現在、中津川市は、リニア中央新幹線開業に向け少しずつ変化し始めています。そこには、先人たちの数多くの挑戦や歴史があり、中津川市は、昔からまちの発展を望み挑戦する精神の宿ったまちであるといえます。しかし、現状は様々な課題が山積しており、今後このまちが大きく変化する今だからこそ、私たちはJC運動を最大化し、シビックプライドに満ちた人々が溢れ世界一まちづくりが盛んなまちに発展させたいと私は願っています。だからこそ、私たちが行動することで人の心を動かし新たな一歩を踏み出す勇気を与え、未来を変える大きな力を生み出すことがJCの責務だと考えます。

近年、世界では、グローバル化が進み、世界全体を行き過ぎた資本主義が覆いつくしたことにより、自然環境を破壊し、富の二極化を生みました。また、日本でも2015年に国連にて採択されたSDGsがメディアなどで取り上げられるようになり、多くの国や企業が同じ共通課題をもって持続可能でより良い社会の実現を目指し、17の目標と169のターゲットに向け動き出しています。しかし、国家間の資源・人財・情報の流通は膨大になり、開発途上国の国内で問題が発生しているように見えても、実際には、国の枠組みを超えて、複合的な原因が組み合わさっているのではないのでしょうか。そして、貧富の差はますます拡大し、開発途上国のみならず、先進国に暮らしていても社会に取り残され苦しんでいる人は多くいるのが現状です。

「きっと誰かが世の中を変えてくれる」

「世界で起きている問題に対して、きっと誰かが解決してくれる」

そう思う人がほとんどだからこそ、私たちは、今を生きる誰かの想い、未来を生きる誰かのため、持続可能な社会へと導くイノベーションを起こし、誰もが幸福を感じられる社会へ共に革新の一步を進みましょう。

～バリアを価値に変え、全ての人が幸福を感じるまちを目指して～

中津川市は、古くから交通の要所として栄えてきました。中山道、JR中央線、中央自動車道などが通り人や情報、文化が集まる場所となり、更には2027年リニア岐阜県駅開業とリニア中央新幹線開通を間近に控え様々な周辺整備が行われています。しかし、これまでの社会は、多数を占めている人たちに合わせて社会が作られてきたため、心身にハンディのある人にとっては、社会生活や日常生活の障壁となる物理的な「バリア」はもちろんのこと、制度や文化、情報面、そして意識的な「バリア」が存在し、その「バリア」は、この中津川市にも存在しています。今後、リニア開通に伴い多くの人を訪れるまちだからこそ、共生社会の実現を成しえず、持続発展していくことが出来るのでしょうか。

昨今、中津川市では、「住んでよし」「訪れてよし」のまちを目指し、リニアの波及効果を活かしたまちづくりはもちろんのこと、地域共生社会の実現に向け、ハンディのある人も含めた全ての人々が、地域、暮らし、生きがいを共に創り、互いに高め合う社会に向け取り組みが行われています。しかし、その認知度は低くメディアなどで流れるネガティブな情報やハンディに対する理解と認識不足から様々な問題があります。SDGsの取り組みによりダイバーシティの考え方が浸透しつつあるこの機会をチャンスと捉え、持続可能で全ての人が生活に楽しみや生きがいを見出し、様々な困難を抱えた場合でも全ての人が幸福を感じるまちを目指さなくてはなりません。そのためには、「最大多数の幸福」を追求するのではなく、一人ひとりが相互に理解を深め、全ての人の人権を尊重し、このまちに住み暮らす人々やリニアによって訪れる全ての人たちの幸福を考え「バリア」をこのまちの価値に変え持続発展するまちを目指しましょう。

～自律と共生が将来の地域を豊かにする～

日本財団が、2022年1月にアメリカや中国等の6カ国の17歳から19歳に対し、国や社会に対する意識調査を行いました。その中で、大人と感じていると答えた人は3割弱、「自分は責任のある社会の一員だと思う」と回答した若者は、他国が軒並み9割近い中で、日本だけ過半数に届いていません。そして、「自分の国の将来についてどう思っていますか」といった問いには、良くなると答えた若者はわずか9.6%です。自国の問題や社会課題に対し日本の若者は、間違いなく当事者意識が決定的に欠如しているのです。だからこそ、大人が、子どもたちの人生をより豊かにするための教育を学び、複雑化する社会で強く生き抜くための育成に努めなければ、子どもたちが変化の激しい世の中を生き抜くことも、明るい将来もないといっても過言ではありません。

現在、中津川市では、中津川市教育振興基本計画「学び、活かす市民～みんなで育つ幼児教育 生き抜く力をはぐくむ学校教育～」とし「よりよいひとりだち」を目指し、子どもたちの生きぬく力を育む教育に力をいれています。今の子どもたちが大人になるころには、更に複雑な社会になることが想定されている中で、大人にも子どもにも求められる資質は、「自律」であり、それと同時に、グローバル化が進み多様化が進んでいる世の中だからこそ、多様な考え方や特性を認め、他者を「尊重」という資質が必要になります。だからこそ、私たち青年会議所メンバー・行政・学校・地域・家庭と連携を図り子どもたちが、未来を創る当事者になれる「自律」と「尊重」を学べる機会を創出し、誰一人とり残さない未来を目指しましょう。

～持続可能なおいでん祭を目指して～

中津川市には、中津川夏まつりおいでん祭を始めとする数多くの夏まつりが存在し、どのまつりも地域を代表する文化であり、コミュニティーを形成するにあたって重要な場でもあります。しかし、人手不足や文化や伝統を受け継ぐ人たちも少なくなっているのが現状です。今後も文化や伝統を受け継いでいくには、今ある「おいでん祭」は、誰のためのまつりで、この観光資源をどう活用し、中津川の活性化に繋げるかが重要になってきます。だからこそ、今ある課題や問題に対し、市民の声に耳を傾け具体的な計画案や持続可能な運営方法を提案し、新たな風を吹き込み進化する必要があります。その中で、多くの人を巻き込みながら、おいでん祭の運営に携わる人を増やし、このまつりが中津川市に住み暮らす人たちのふるさとのまつりとしてはもちろんのこと、市外県外国外から訪れる中津川市のシンボルとなるまつりへ進化させましょう。

～中津川青年会議所の更なる発展に向けて～

(一社)中津川青年会議所は、1952年から今に至るまで、時代に先駆け様々な運動を展開し、数々の功績を残していただいた先輩諸兄姉や協力していただいた中津川市の行政や各種団体そして、多くの市民の皆さまのおかげで2024年度に創立70周年を迎えます。いつの時代も立ち返るのは創始の精神であり歴史を紐解くことで、この70周年という節目を迎えることができると思います。70周年に向けて準備を始めるのはもちろんのこと、新たなフェーズに進む私たちだからこそ、時代に先駆け活躍してきた先輩諸兄姉の運動や想いを知り、創立70周年に向けモチベーションを高めると同時に今後の青年会議所について考えていくことが重要です。新たなステージに立つため創始の想いを引き継ぎ、想いを高め2023年度から2024年度へバトンを渡しましょう。

～新時代に向けた持続可能な組織を目指して～

昨今、青年会議所では、多様性のある組織の確立を目指し、女性拡大や若者拡大に取り組んでいます。しかし、多くの人を入会に導くだけが、多様性のある組織の目的ではありません。

ません。多様性のある組織を目指すのであれば、女性や若者の個性を活かし、全メンバーが活躍できる組織でなければなりません。だからこそ、私たちが今一番に考えるべき最重要課題は、多様な価値観を受け入れられる寛容な組織風土の醸成であり、そのために、個性を活かしたチームビルディング、そして、違いを価値に変える文化の創造をしていく必要があります。その中で、私たちは青年会議所の最上位の目的に立ち返り、全メンバーが中津川青年会議所をより良くするための当事者となり J C 運動を最大化することで、青年会議所の価値が高まり、会員拡大に繋がると考えます。だからこそ、多様性を受け入れ、全てのメンバーが青年会議所活動にやりがいを見出し「集める組織」から「集まる組織」へ皆で変革の一步を進みましょう。

～おわりに～

中津川青年会議所は、68年もの間、多くの青年がこの地域の未来を考え様々な運動を行ってきました。今もこの混沌とした社会をより良い社会にするため、ここにいる全メンバーは、日々挑戦しています。そのことにもっと自信をもってください。私たちが行っているのは、この先起こりうる小さな問題が大きな問題にならないために、未来のまちや、未来の人を想い活動しているのです。もちろん不確実なものだからこそ、うまくいかなくて悔しい想いをしたり、恥ずかしい想いをしたり、どうしていいか分からなくなることもあるかもしれませんが、でもそれは、当たり前です。私たちが追いかけているのは「明るい豊かな社会」の実現という大きなビジョンだからこそ、簡単な道のりではないのです。だからこそ、失敗を恐れず、全力でやればいいのです。もちろん、新しいことをやればバカにしてくる人もいます。その時、笑われ無様であっても私は、あなたたちのために何度でも立ち上がり一人ひとりが、自分の枠を超えて輝く未来へのストーリーを刻んでいけるのであれば盾になり、あなたたちに英知と勇気と情熱を注ぎます。革新の一步を共に歩んでいきましょう。私たちなら、できる。

<運営方針>

- ・自律した J A Y C E E として責任ある行動
- ・多様性を活かした委員会運営
- ・持続可能な幸せを生み出す L O M 運営

<運動方針>

- ・誰もが幸福を感じるまちづくり
- ・「自律」と「共生」を育む青少年活動